

課題解決型研究プログラム 低炭素研究プログラム

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- これまでの実績や得意分野を活かして3つのプロジェクト研究がバランスよく進展しており、着実に質の高い成果を上げていると評価できる。
- 東南アジア観測ネットワークの整備など国際連携による研究が進展した点や、IPCC への対応などの国際貢献が高く評価できる。

今後への期待など

- 地球環境の保全という世界的な役割を担う国環研の目玉プログラムである。今後の継続、発展を期待する。
- 政策研究としては、直近のニーズに対応した指摘にとどまらず、低炭素社会実現に向けた長期的展望に資する政策研究メッセージを期待する。
- 人間社会的側面からの緩和策・適応策の検討には、自治体スケールでのより詳細な気候変動予測が必要なため、メソスケールまでダウンスケールした先進的な気候変動予測結果を期待したい。
- 一般市民やステークホルダーへの対外的発信力も優れている。課題解決のための本質を分かりやすく伝えるために考慮していることなどを整理して示すとよい。

主要意見に対する国環研の考え方

- ①各分野の学術コミュニティへの貢献を第一に考えつつ、可能かつ有効な所内連携を行い、今中長期計画の後半に向けさらに成果をあげるよう努力してまいります。プロジェクト間は現体制では独立性がある程度高く、優先度等の判断は、基本的には中長期計画毎に行っていくことになるかと考えております。
- ②東南アジアでの研究はまだまだこれからですが、現地での人や研究、予算的基盤が弱いため、その底上げも含めて、共同体制を確立するよう努力しています。最終的には、各国内で研究基盤ができ、気候変動問題に力を合わせることができれば良いと考えています。
- ③PJ2 のサブ 2 のバイオ燃料大量利用シナリオ研究は、現時点ではトレードオフの指摘に留まっておりません。今後は、長期的視点としてはバイオ燃料大量利用を避けるシナリオの探索、より直近のニーズとしては、持続可能性に配慮したバイオ燃料利用の検討を行っていきたいと思います。
- ④自治体スケールの気候変動予測につきましては、地域気候予測のモデリングを先行している国内のグループがあるため、それらのグループと協力して、地域気候シナリオを整備して適応策に提供する部分を当研究所で担っていきたいと考えております。
- ⑤情報発信につきましては、発信しうる内容があるごとに随時行っているのが現状であり、できる限り多くの発信をするよう心掛けております。メディア等で取り上げられる場合の簡潔な表現が誤解を生まないために、より詳細な解説をネット上に用意するなど、情報を階層化して(広い対象には簡潔に、一部のもっと知りたい方対象にはより詳しく、いずれも本質を外すことなく)発信することが適切と考えております。